

Title	日本の賃金格差に関する実証分析
Author(s)	奥井, めぐみ
Citation	大阪大学, 1998, 博士論文
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.11501/3144103">https://doi.org/10.11501/3144103</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

氏名	奥井めぐみ
博士の専攻分野の名称	博士（国際公共政策）
学位記番号	第13988号
学位授与年月日	平成10年3月25日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当 国際公共政策研究科比較公共政策専攻
学位論文名	日本の賃金格差に関する実証分析
論文審査委員	(主査) 助教授 大竹 文雄  (副査) 教授 伴 金美 教授 跡田 直澄

#### 論文内容の要旨

本研究は、日本において、職種間や企業規模間で「賃金格差」が存在するかどうかを実証的に分析すること、賃金構造の違いが労働者の転職行動に影響を与えるかどうかの確認することの二つを目標としている。

従来、賃金格差の実証分析には、個票レベルのデータを用いたクロスセクション分析が用いられてきたが、観察されない個人の属性、例えば観察されない能力の差がコントロールできない点に限界があった。本研究は、同一個人の異時点間のデータを利用することにより、観察されない属性をコントロールすることを試みた。第1章では職種間賃金格差の推計、第2章では企業規模間賃金格差の推計を行っている。

職種間賃金格差の推計結果は、男女ともクロスセクション分析による職種間賃金格差のうち約6割が純粋な職種間賃金格差で説明できるが、残りは職種ごとの観察されない能力の差が影響していることがわかった。企業規模間賃金格差では、男性のクロスセクション規模間格差の約半分強は純粋規模間格差で説明できるが、女性の場合は純粋規模間格差は観察されず、ほとんどが能力差であることが示された。

第3章では、企業規模別に賃金プロファイルと生産性プロファイルを推計し、その形状からシェアリングモデルとシャッキングモデルのどちらが整合的かを調べている。対象としたのは電気機器産業の企業の財務のパネルデータである。分析結果から、大規模企業グループではシャッキングモデルは観察されないが、小規模企業グループでかなり早い時期にシャッキングモデルが成立するという結果が得られた。

第4章では、転職行動と賃金構造との関係を調べたものである。まず、個票データを利用して企業規模別、産業別、職種別の賃金プロファイルを求めている。続いて、賃金プロファイルの水準と勾配を推定し、賃金プロファイルの形状が転職行動に影響を与えているかどうかを分析している。結果から、賃金プロファイルの水準を変数に加えずに分析した場合は賃金プロファイルの勾配が急なほど転職確率が高くなることが示された。

#### 論文審査の結果の要旨

本論文は、いくつかの点でこれまでの学会の知識に新たな知見を加えていると評価できる。例えば、職種間・規模間賃金格差のパネルデータによる検証（第1章、第2章）は、これまで日本ではほとんど行われてこなかったので、

その価値は大きい。いずれの章の論文も、個票データを注意深く、適切な統計処理を行うことによって実証研究を行っており、信頼に足る結果を得ている点で高く評価できる。

もっとも、当論文にも問題がないわけではない。例えば、第1章、第2章で明らかにされた純粹の職種間・規模間賃金格差の存在についても、その理由を実証的に明らかにする必要がある。

しかしながら、これは、本論文の問題点というより、これからの研究で明らかにすべき課題であり、本論文の価値を少しも傷つけるものではない。したがって、本論文は、博士（国際公共政策）の学位に十分値するものであると判定する。